

第 4 回

過疎地域の公的病院における包括的ケアとしての
歯科衛生士の役割

～ゼロからの活動と取り組み～

新納利恵子¹⁾、後藤智香子²⁾、古谷清枝³⁾、近藤洋子³⁾、友田容子³⁾、大森彰子⁴⁾、
橋本順子⁵⁾、沖田充司⁶⁾、村上正和⁶⁾、名部 誠⁷⁾

1) 岡山県・矢掛町国保病院歯科衛生士、2) リハビリテーション科、3) 看護介護科、4) 地域連携室、5) 栄養科、6) 外科、7) 内科

はじめに

当院は岡山県南西部、人口約1万5,000人、高齢化率36.7%（平成28年4月）の過疎地域である矢掛町内唯一の公的病院である。一般47床、地域包括ケア10床、療養60床のケアミックス型で、入院患者の約8割は75歳以上の高齢者である。入院患者の多くは認知症と身体機能の低下を伴い、嚥下障害、口腔衛生の悪化、低栄養を伴っている。口は呼吸・栄養・コミュニケーションの要であり¹⁾、ケアを怠ると口腔機能や味覚の低下から食欲が減退する。そして、食事摂取量が低下すると栄養が十分摂取できず、身体機能低下や疾患が悪化する悪循環を生じる²⁾。そのため、口腔衛生と機能を複合させた口腔管理に基づく食への支援が求められ³⁾、口腔管理の重要性が高まっている。

当院でも医科歯科連携を重視し、平成17年4月から地域の小田歯科医師会（現 笠岡・小田歯科医師会）と連携活動を進めたが、実際には受け入れ体制の不備などから継続は困難であった。平成25年4月以降中断していた栄養サポートチーム（以下、NST）の再度の立ち上げが実現し⁴⁾、そこにおいて栄養管理と並行しての摂食嚥下訓練、口腔管理の重要性が再認識された。また、ほぼ機能していなかった歯科連携を再開する上でも、歯科衛生士が必要との機運が高まったことを契機に平成27年8月、歯科衛生士の着任が実現した。それにより入院患者の口腔管理と歯科医師会連携による

歯科診療が可能となった。

常勤歯科医師のいない地方病院での歯科衛生士のゼロからの活動と取り組みについて報告する。

対象と方法

1. 歯科衛生士の活動と取り組み

着任後からチーム医療を含む活動体制の構築までの過程を、(1) 口腔の現状調査、(2) 歯科衛生士介入システムの構築、(3) 口腔嚥下リハビリチームの立ち上げ、(4) 地域歯科医師会との医科歯科連携の構築、(5) 地域への取り組み——の5段階に分け、その活動内容を検討した。

2. 歯科衛生士による活動結果

平成27年8月から平成29年8月までの期間におけるアセスメント内容、歯科訪問診療件数、歯科診療内容とその問題点を検討した。

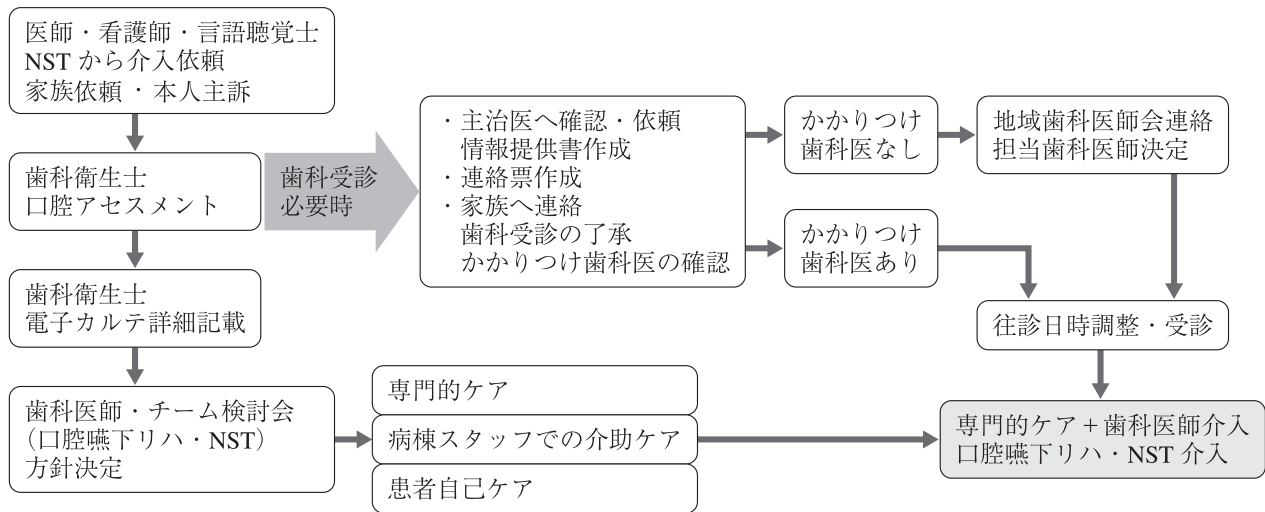
結 果

1. 歯科衛生士の活動と取り組みについて

(1) 口腔の現状調査

唾液分泌低下による口腔乾燥、自浄作用低下による剥離上皮・痂皮、舌苔の堆積、オーラルフレイル、嚥下障害など高齢者特有の問題が見られた。また、う蝕や歯周病など口腔疾患の未治療例、義歯の不具合・不

図1 歯科衛生士による医科歯科連携



適合使用や、義歯の不用例も見られた。

(2) 歯科衛生士介入システムの構築 (図1)

入院症例全員の口腔管理を行うには個人の力では限界があり、実情に合わせた介入法を作成した。介入依頼を受け、口腔アセスメントに基づき、セルフケア、日常業務での口腔ケア（介助ケア）、歯科衛生士が介入する専門的口腔ケアの3つに振り分け、口腔のケアを実施する。なお、特に対応困難例や要注意例は個別に指示、提示している。歯科受診が必要な場合は連携手続きと歯科訪問診療を行うようにした。

(3) 口腔嚥下リハビリチームの立ち上げ

歯科衛生士が孤立せず効率よく診療を進める上で、他職種と連携が必要になる。当院には多職種による複数の委員会あり、NSTの下部組織として平成27年9月に口腔嚥下リハビリチームを立ち上げた。言語聴覚士(ST)をリーダーに、医師、看護師、介護福祉士、そして歯科衛生士が新たに加わり、10名の構成員で活動を開始した。

具体的には、①毎月第2火曜日に委員会を開催し、新規・ST介入例、医科歯科連携などの実績報告、活動課題の検討、②毎週水曜日にNSTと合同検討会を開催し、情報の共有化、③口腔管理に必要な口腔衛生用品の処方、④売店と連携し、口腔衛生用品の院内購入の体制整備、⑤月ごとにテーマを変え、毎週火曜日にワンポイント勉強会を開催し、口腔に関する知識の伝達

と口腔ケアの標準化、⑥歯科訪問診療時の部屋の確保、診療準備・補助、電子カルテへ治療内容・次回予定の記載と申し送り——を主な業務とした。なお、病棟では看護師との共同業務となるため、軌道に乗るまではNST専門療法士とチームの看護師が歯科衛生士と病棟スタッフの間に入り、業務支援を行った。

(4) 地域歯科医師会との医科歯科連携の構築 (図2)

歯科受診を必要とする場合、主治医へ確認了承後、情報提供書作成の依頼、地域連携室に歯科介入の連絡を行う。担当看護師から家族へ歯科介入の連絡・承諾、かかりつけ歯科医の有無を確認する。かかりつけ歯科医がない場合は地域歯科医師会へ連絡を行い、担当歯科医の決定後、日程などの調整を行う。平成28年7月、平成29年8月には地域歯科医師会と連携協議会を開催し参加した(写真1)。開催に向けての段取り、調整役も歯科衛生士主導で行った。

(5) 地域医療への展開と取り組み

地域医療関連施設職員との合同勉強会である矢掛地区地域医療介護連携懇話会で、口腔衛生・口腔機能管理の啓発を行った(写真2)。当院ではメディカルスタッフによる包括的なケアを提供する目的で、NST・感染対策推進委員会(ICT)・褥瘡対策チームを中心に矢掛包括的ケアサポートチームを立ち上げ、地域一体型チームを目指し活動しており、退院後の訪問診療に同行し、定期的に口腔管理を行っている。

写真1 平成29年8月には、地域歯科医師会との2回目の連絡会議を開催



病院管理部と地域歯科医師会との協議会に参加
現状での問題点、今後の課題について協議



病院と歯科医師会との調整役

写真2 地域の医療、介護関係者を対象に、地域医療介護連携懇話会を定期的を開催



第12回矢掛地区地域医療介護連携懇話会にて



地域の医療、介護関係者対象

2. 歯科衛生士による活動結果

アセスメント数は293件（図2a）で、ケアの効率的な分担化が可能となった。歯科衛生士主導で実際の歯科訪問診療が可能となった平成27年11月から新規歯科介入は157件であり、回数も増加して318回となった（図2b）。治療内容は義歯関連が半数を占め、続いて抜歯、歯内治療、う蝕処置の順に多かった（図2c）。

考察

今回、歯科標榜のないまた、今まで歯科衛生士の勤務実績のない病院へ着任し、まったく基盤のない中で活動を開始した。歯科衛生士法により、その活動は歯科医師の指導の下に行うとされているため、歯科医師との連携が必須となる。医科歯科連携を進める上で、歯科標榜のない病院では地域の歯科医師会との連携が必要で、歯科衛生士は地域歯科医が病院で活動しやすいように連携窓口となること、医科の情報を歯科医に、歯科の情報を院内に伝える橋渡しの役割を担うことで

シームレスな口腔のケアの提供が可能としている⁵⁾。

歯科衛生士の現場での活動展開においては、病状把握が困難な状況下での活動には限界があり、全身管理の主な担い手である医科スタッフとの多職種連携のもと、活動を進めなければならない。近年、NST結成で栄養療法的重要性が見直され、口から食べることを目指し、嚥下リハビリも積極的に取り組まれるようになっており、また、口腔を良好な状態に維持することの重要性が認識されてきた⁶⁾。

当院でも例外ではなく、NST活動の基本に栄養サポート、嚥下リハビリテーションと口腔管理は切り離せない重要な医療・ケアであると考えていること、NSTの活動で院内のチーム医療の文化が成熟してきたこと、院内全体で摂食嚥下に関する意識が高まったことで、必要性や役割が明確化され、あらかじめ連携しやすい環境ができていたことが、活動の展開を円滑に進めることができた要因と考えた。

地域の歯科医療においては一般的に歯科医師、歯科衛生士自体の摂食・嚥下支援に関する関心に格差があ

図 2 a DHによるアセスメント内訳

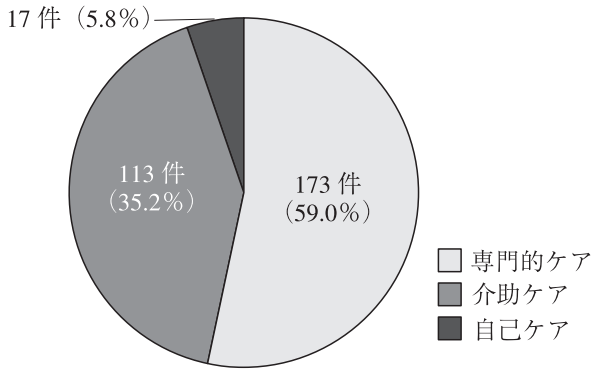


図 2 c 治療内容

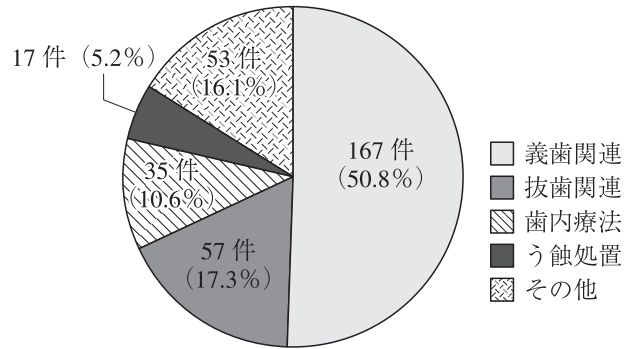
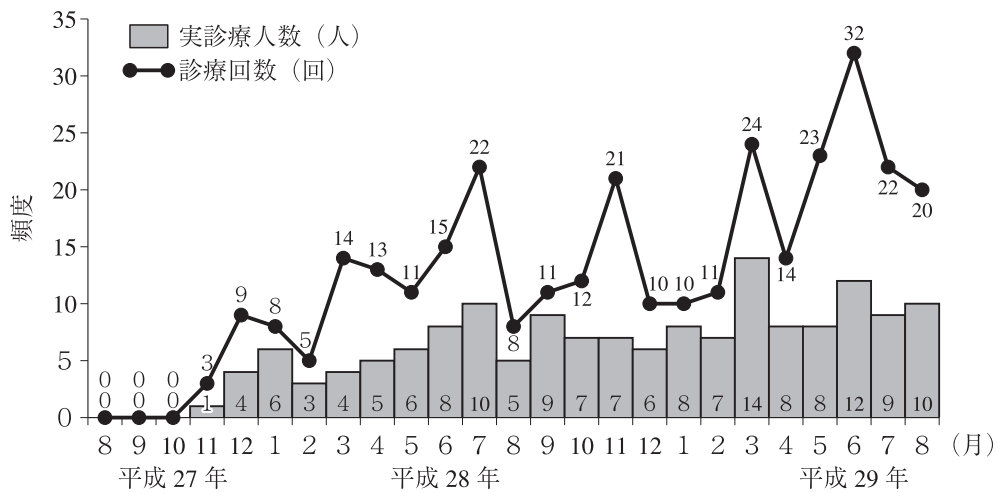


図 2 b 入院患者への歯科訪問診療数



るとされ、また、実際に摂食・嚥下障害に介入する歯科医師の総数はごく少ないとされている⁷⁾。しかしながら、矢掛町は歯科医師会に関心と熱意のある歯科医が在籍しているため、歯科医師会との事前協議や歯科衛生士着任後の連携構築が円滑に進んだと思われた。院内での歯科衛生士による口腔管理と医科歯科連携による歯科訪問診療体制は確立しつつあり、今後は町内の医療・介護施設や在宅分野を含む地域一体型の連携を目指し、活動を進める予定である。

において発表した内容を一部追加し報告した。著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

●参考文献

- 1) 小山珠美. 誤嚥性肺炎の治療と再発予防のコツ 病棟での口腔ケア:ナースの力を活用しよう. MB Med Rehabil 160: 39-47,2013
- 2) 角保徳. 高齢者の嚥下障害、その評価と対応 嚥下障害患者における口腔ケアの意義. 日老医誌50: 465-468, 2013
- 3) 有友たかね. 地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割. 多摩地区における活動を通じて. 障害者歯37: 115-118, 2016
- 4) 古谷清枝, 沖田充司, 渡邊涼子, 橋本順子, 多賀友里恵, 渡邊典子. 当院でのNST再活動における看護師としての取り組み. 日静脈経腸学会誌 32: sup 55, 2017
- 5) 赤坂幾子, 畠山良彦, 高橋良明, 曾根克明, 星野 彰, 北村道彦, 遠藤英彦. 医科歯科連携・チームで取り組む口腔ケア推進活動. 日クリニカルパス会誌 17: 334-337, 2015
- 6) 岸本裕充, 大石善也, 永長周一郎, 足立了平. 口腔ケアからオーラルマネジメントへ. 医事新報 4459: 54-58, 2009
- 7) 柴崎美紀. 地域における栄養サポートチームの多職種連携と発展要件. 杏林医会誌 47: 91-112, 2016

結 語

歯科標榜のない地方病院での地域医療・包括的なケアとしての歯科衛生士の活動と取り組みについて報告した。本研究の要旨を第56回全国国保地域医療学会（山形）、第54回岡山県国保診療施設研究発表会